

## 県立高校再編整備候補案について

### 【第1通学区】

通学区全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1通学区の中学校卒業生数は、平成2年の10,937人のピークに比べ平成31年には5,647人(H2年比51.6%)と減少することが見込まれる。</li> <li>・総数決定基準に基づき、27校から21校に再編整備することが必要となる。</li> </ul>
-------	---

### 飯山照丘高校、飯山北高校、飯山南高校の統合

<b>飯山照丘高校</b> 沿革 ・昭和35年(県)飯山南高等学校照丘分校 ・昭和49年(県)飯山照丘高等学校 設置学科及び生徒数 ・普通科 ・1年51人、2年42人 3年34人、計127人  <b>飯山北高等学校</b> 沿革 ・明治36年(県)長野中学校飯山分校 ・明治39年(県)飯山中学校 ・昭和23年(県)飯山北高等学校 設置学科及び生徒数 ・普通科 1年116人、2年79人 3年119人、計316人 ・理数科 1年38人、2年40人 3年40人、計118人  <b>飯山南高等学校</b> 沿革 ・大正10年(郡)下水内高女	<b>【生徒数の状況】</b> ・第1区の中学校卒業生数は、平成17年の519人に対し、平成31年には279人となることが予想される。240人の減少で、およそ53.8%となる。 ・平成31年には、第1区の中学校卒業生279人が、第1区の現状の4校に入学したとしても、1校当たりの平均が69.8人となり、2学級には満たなくなる。  <b>【流入】</b> ・飯山南高校は県内唯一の体育科を設置しているため、他区からの流入もあるが、第1区全体として流入は少ない。 ・第1区の中学を卒業して高校へ進学する生徒の4人中1人は、第2区または第3区の公立高校へ進学している。私立まで含めると30%以上が他区へ流出しているのが現状である。 ・公私立含めて第4区への進学者がほとんどいないことから、通学圏域としては第1～3区までと考えることができる。  (平成16年度中学校卒業生の進学状況)
---	---

	飯山照丘	飯山北	飯山南	下高井農林	第2区高校	第3区高校	その他の区高校	合計
飯山第一 (割合)	8 8.1	23 23.2	19 19.2	12 12.1	13 13.1	20 20.2	4 4.0	99
飯山第二 (割合)	7 7.5	33 35.5	19 20.4	16 17.2	10 10.8	8 8.6	0 0.0	93
飯山第三 (割合)	9 9.9	27 29.7	13 14.3	20 22.0	6 6.6	15 16.5	1 1.1	91
木島平 (割合)	2 2.3	26 30.2	12 14.0	9 10.5	22 25.6	11 12.8	4 4.7	86
野沢温泉 (割合)	8 16.3	14 28.6	7 14.3	9 18.4	2 4.1	8 16.3	1 2.0	49
豊田 (割合)	2 3.8	6 11.5	8 15.4	3 5.8	14 26.9	17 32.7	2 3.8	52
栄 (割合)	3 10.0	6 20.0	5 16.7	10 33.3	2 6.7	1 3.3	3 10.0	30
合計 (割合)	39 7.8	135 27.0	83 16.6	79 15.8	69 13.8	80 16.0	15 3.0	500
第1区と他 (割合)	336 67.2				164 32.8			

学校

・大正 11 年(県)飯山高等女学校

・昭和 23 年(県)飯山南高等学校

設置学科及び生徒数

・普通科

1 年 83 人、2 年 80 人

3 年 82 人、計 245 人

・体育科

1 年 41 人、2 年 36 人

3 年 38 人、計 115 人

【入学者の状況】

・飯山照丘高校は、生徒数の減少により平成 12 年から 1 学年 2 学級募集をしているが、現在の在籍者数は 127 人であり、下限の 2 学級規模を下回っている。

・飯山北高校、飯山南高校は、生徒数の推移に応じて 3 ～ 4 学級の生徒募集をしており、入学者数が定員を満たしている。

(平成 17 年度高校入学者の状況)

高 校	飯山照丘	飯山北	飯山南	下高井農林
飯山市中学	24	83	51	48
その他 1 区中学	15	52	32	31
第 2 区中学	6	10	16	1
第 3 区中学	3	8	12	0
第 4 区中学	0	1	1	0
その他の区の中	1	0	11	0
合 計	49	154	123	80

【地理的状況】

・飯山照丘高校は飯山市の北部に位置し、戸狩野沢温泉駅が最寄駅であり、そこから徒歩 15 分を要する。

・飯山北高校は北飯山駅より徒歩 3 分のところにあり、ほぼ飯山市の中央に位置する。

・飯山南高校は、最寄駅は飯山駅であるが、徒歩で 25 分かかるため、通学には比較的時間がかかる。

【総括】

・一定規模の学校としてスケール・メリットを活かし、現在飯山市内の高校に設置されている、普通科、理数科、体育科を地域の生徒たちが選択できるように配慮しつつ、飯山照丘高校、飯山北高校、飯山南高校を統合する。

・統合して新たな学校を設置するにあたり、冬期の積雪や飯山市内の多くの生徒の通学を考慮すると、飯山市のほぼ中央に位置し、最寄駅からの距離が近い飯山北高校の校地・校舎を利用していく。

【再編後のイメージ】

・当面は主に飯山北高校の校舎・校地を利用しながら、体育科施設設備のある飯山南高校の校舎・校地も同時に利用していく。

・特に普通教科の授業には飯山北高校の校舎を活用し、統合によるスケール・メリットを活かして地域の生徒に対する教育方法を工夫していく。

・将来的には、生徒数の推移や校舎改築、大規模改修の時期を考慮しながら、飯山北高校の校舎に統合していく。

【近隣校の状況】

・下高井農林高校は、この地域唯一の専門高校であり、農業科の体験的な教育ができることから、地域の生徒の学びの選択肢としていく。

# 中野高校と中野実業高校の統合（総合学科に転換）

## 中野高等学校

### 沿革

- ・明治44年(町)中野実科高等女学校
- ・大正15年(県)中野高等女学校
- ・昭和23年(県)中野高等学校

### 設置学科及び生徒数

- ・普通科
- ・1年163人、2年154人、3年156人、計473人

## 中野実業高等学校

### 沿革

- ・明治39年(郡)乙種農蚕学校
- ・昭和16年(県)中野農商学校
- ・昭和23年(県)中野実業高校

### 設置学科及び生徒数

- ・工業科、  
1年150人、2年158人、3年157人、計465人
- ・商業科  
1年70人、2年74人、3年76人、計220人
- ・定時制普通科  
1年25人、2年11人、3年8人、4年0人、計44人
- ・定時制工業科  
1年0人、2年0人、3年0人、4年4人、計4人

## 【生徒数の状況】

- ・第2区の中学校卒業生数は、平成17年は1,425人であったが、平成31年には1,087人となることが推測される。338名の減少(76.3%)であり、流出入を加味すると27学級の募集となる。
- ・一定規模の学校としていくためには、現行の7校から5～6校程度とすることが適切であると判断される。

## 【流出入】

- ・長野電鉄による交通の利便性があるため、第3区との流出入が激しい。
- ・平成17年度入学生では327人が第3区から流入し、252人(公立152人、私立100人)が第3区へ流出しており、流入が75人上回っている。
- ・中野市と須坂市では、平成17年度中学校卒業生数が、それぞれ334人と384人であり、他区への流出は中野市が第1区へ26人、第3区へ36人、須坂市は第1区へは0人、第3区へは69人という状況である。
- ・他区からの流入は、中野市内校へは、第1区より66人、第3区より53人、計119人に対し、須坂市内校は第1区より2人、第3区より271人、計273人である。
- ・生徒数の推移及び流出入の面から、須坂市内の高校への入学者数に比べて、中野市内の高校への入学者数の方が減少幅が大きいことが推定できる。

## (平成16年度末の第2区中学校卒業生の区別進学先)

区	第1区 高校	第2区 高校	第3区 高校	第4区 高校	第5区 高校	第6区 高校	第7区 高校	第8区 高校	第9区 高校	第10区 高校	第11区 高校	第12区 高校	県 外	合 計
1区中学計	336	69	80	3	4	2	1				2	4	4	501
常盤		95	19	2	1						2			119
相森		123	31	3		1					1	5	5	164
墨坂		111	46	8		1					2	3	3	171
須坂東		60	21	1		1				1	4			87
南宮	3	184	25	4	1						2	3	3	222
中野平	6	81	20	1	2			1			1	1	1	113
高社	17	78	18											113
小布施		91	33	1		1					1	1	1	128
高山		80	20	3	2									105
山ノ内	7	111	16	1		2								137
その他		3	3			1								7
学計	33	1,017	252	24	6	7		1		1	13	13	13	1,366
学計	23	327	1,902	362	54	24	6	2	1		18	41	41	2,760
学計	2	15	563	1,285	165	19		1	2		13	19	19	2,084

## (平成17年度第2区高校の中学校別入学者数)

	中野	中野 実業	中野 西	中野 市	須坂 商業	須坂 東	須坂	須坂 園芸	須坂 市
第1区中学	7	47	12	66	0	1	1	0	2
第2区中学	135	151	203	489	69	166	192	81	508
第3区中学	19	17	17	53	87	70	41	73	27
第4区中学	0	1	2	3	3	1	5	3	1
その他の区の中学	0	3	1	4	1	1	2	2	6
合計	161	219	235	615	160	239	241	159	799

## 【入学者の状況】

- ・中野高校は前期選抜実施以降、志願倍率は1.0倍を越え、入学

	<p>者が募集定員を満たしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中野実業高校の志願倍率については、学科による差があり、1.0倍を越える学科と越えない学科がでてきており、平成17年度入試については、入学者が若干募集定員を下回っている。</li> </ul> <p>【地理的状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の中野実業高校には、685人の生徒のうち、第3区からの75人を含めて232人が電車を利用して通学をしている状況から通学圏域が広いことが判断できる。</li> <li>・中野高校は最寄駅が信州中野または中野松川であるが、そこから約1.1～1.2km離れたところに位置している。</li> <li>・中野実業高校の最寄り駅は信州中野であるが、そこから約800mの距離のところに位置している。</li> <li>・両校間の距離は約600mの近距離にある。</li> </ul> <p>【総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒数の減少や流出入の状況から中野市内の高校3校を2校としていくことが適切である。</li> <li>・中野高校と中野実業高校では、それぞれコース制や専門学科が設置されており、普通科目以外に職業科目を取り入れた教育が展開されているため、両校の多彩な教育課程を活かした総合学科高校として統合していく。</li> <li>・統合に際し、中野実業高校は、専門教育の施設設備が既設であることや、最寄駅からの距離が近いことから、統合後の校舎・校地として活用する。</li> </ul> <p>【再編後のイメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在中野高校に設置されている福祉、ビジネス教養、進学の3コースの教育活動や、中野実業高校に設置されている工業科と商業科の施設設備や教育活動を活かして、福祉、情報、工業、商業と幅広い選択肢を用意した総合学科を設置していく。</li> <li>・中野市近隣の農業関連産業を考慮して、地域や産業との連携により、現在の中野高校のコースや、中野実業高校の学科との融合的な教育を行う系列を置くことも考えられる。</li> <li>・通学可能である圏域が広いことから、現在以上に多くの生徒を募集することが可能である。</li> </ul> <p>【近隣校の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中野西高校は、中野高校と中野実業高校の距離に比較して離れており、地域の生徒の大学進学への期待に応え、今後も一定規模で生徒の募集が可能であると推定できる。</li> <li>・第1通学区においては、第3区に立地する市立皐月高校が総合学科への転換を決めていることから、通学圏域を広くするためには県立総合学科は第2区へ配置していく。</li> </ul>
--	--

中条高等学校

沿革

・ 明治 42 年(町)西部農学校

・ 昭和 18 年(郡)中条農学校

・ 昭和 23 年(県)中条高等学校

設置学科及び生徒数

・ 普通科

・ 1 年 41 人、2 年 35 人

・ 3 年 27 人、計 103 人

犀峡高等学校

沿革

・ 大正 10 年牧郷教員養成所

・ 昭和 24 年(県)犀峡高等学校

設置学科及び生徒数

・ 普通科

・ 1 年 56 人、2 年 36 人

・ 3 年 37 人、計 129 人

【生徒数の状況】

・ 第 3 ・ 4 区では、平成 17 年の中学校卒業生数が、5,048 人であったが、平成 31 年には4,281 人となることが推定され、767 人の減少となる。

・ 高校の数は、県立 16 校、市立 1 校、私立が 5 校あり、長野市、千曲市の高校に生徒が集中し、周辺の高校では下限規模を下回ることが懸念される。

・ 募集学級数は、平成17年度89学級であるのに対し、平成31年には75学級となることが推定される。

・ 学校を一定規模としていくために、県立全日制を 13 校程度にしていくことが適切である。

【流出入】

・ 第 3 ・ 4 区の高校は、通学圏域が広く、この地域の生徒は比較的学校の選択肢が広い。

・ 長野市から上田市にかけてのしなの鉄道沿線は交通の利便性がよいところであり、この区間は列車の本数も比較的多く、長野 - 小諸間でも 1 時間ほどで移動できる。

・ 第 3 区と第 4 区の間での流出入は県内で最も多く、平成 17 年度入学生では、第 3 区から第 4 区へは 262 人、4 区から 3 区へは 372 人の流出入があり、同一の通学圏域としてみることもできる。

【入学者の状況】

( 中学卒業生の進路動向 )

中条中学	4	12	6		22
小川中学	5	8	2	2	17
合 計	9	20	8	2	39

進学先	犀峡高校	その他第3区の高校	第4区の高校	その他の区の高 校	合 計
信州新町中 学	22	18	20	2	62

( 高校入学者の状況 )

(80名募集)		割合
小川中学・七二会中学	16	39.0
中条中学・鬼無里中学		
上記以外の長野市内中学	21	51.2
第2区	1	2.4
第4通学区	3	7.3
合 計	41	100.0

犀峡高校の入学者内訳(80名募集)		割合
信州新町中学・信更中学	23	41.1
上記以外の長野市内中学	26	46.4
その他第3区	2	3.6
第2区	1	1.8
第4区	2	3.6
第4通学区	2	3.6
合 計	56	100.0

・ 中条高校の主な地元となる中条村、小川村、犀峡高校の主な地元となる信州新町、長野市信更の各中学から卒業する生徒の半数以上は長野市内の高校へ進学している。

・ 中条高校や犀峡高校へ通学している生徒は、長野市内の中学を卒業した生徒の割合が多い。地元小学校・中学校の在籍者数を見ると、この傾向は今後も続くことが推定される。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 17 年 4 月時点での中条高校の在籍者数は 103 人であり、2・3 年生は 1 学級 40 名を下回っている。</li> <li>・犀峽高校の在籍者数も 129 名であり、下限規模の 1 学年 2 学級規模（全校で 240 名）を下回り、2・3 年生は 1 学級 40 名を下回っている。生徒数の減少により中条高校と同様な生徒数となっていくことが推定される。</li> </ul> <p>【地理的状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の進路動向をみると、小川中学や中条中学の卒業者にとって、長野市内、千曲市内の高校は通学可能圏域と考えることができる。</li> </ul> <p>【総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地理的な配置として、長野市内への通学がより不便である信州新町の生徒を考慮し、犀峽高校の校地・校舎を活用していく。</li> <li>・犀峽高校の校地・校舎を活用し、最終報告にある「規模の多様化」を活かして、小規模校として特色ある新たな学校を 1 校設置していく。</li> </ul> <p>【再編後のイメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模な高校であることを活かし、生徒相互、生徒と先生のつながりに重きをおくことを特色とする。</li> <li>・犀峽高校を統合後の校舎・校地とすることで、小規模であることを活かした、きめ細かな指導による大学進学への取り組みや、地域との連携や自然を活かした授業の創造、特色あるクラブ活動などにより、積極的に魅力づくりを考えていかなければならない。</li> </ul> <p>【近隣校の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いわゆる「地域高校」は、中条高校と犀峽高校のほかにも、三水村にある北部高校、坂城町にある坂城高校がある。</li> <li>・北部高校は長野市と距離的に近く、現在の志願状況や充足率から、将来的にも一定の学校規模を保つことができることが予想される。</li> <li>・坂城高校はしなの鉄道沿線であるため交通の利便性がよく、多部制・単位制高校の候補としていく。</li> </ul>
--	--

長野南高校と松代高校の統合

長野南高等学校

沿革

- ・昭和 58 年(県)長野南高等学校

設置学科及び生徒数

- ・普通科
- ・1 年 246 人、2 年 240 人  
3 年 213 人、計 699 人

松代高等学校

沿革

- ・明治 39 年(町)乙種農学校
- ・昭和 3 年(町)松代高等女学校(昭和 16 年組合立)
- ・昭和 24 年(県)松代高等学校

設置学科及び生徒数

- ・普通科
- 1 年 81 人、2 年 79 人  
3 年 115 人、計 341 人
- ・商業科
- 1 年 121 人、2 年 115 人  
3 年 105 人、計 275 人

【生徒数の状況】

- ・第 3・4 区は、平成 17 年の中学校卒業生数が、5,048 人であったが、平成 31 年には 4,281 人となることが推定され、767 人の減少となる。
- ・高校の数は、県立 16 校、市立 1 校、私立が 5 校あり、長野市、千曲市の高校に生徒が集中し、周辺の高校では下限規模を下回ることが懸念される。
- ・募集学級数は、平成17年度89学級であるのに対し、平成31年には75学級となることが推定される。
- ・学校を一定規模としていくために、県立全日制を 13 校程度にしていくことが適切である。
- ・中学校卒業生数の減少は、第 3 区より第 4 区のほうが多い。平成 17 年度と平成 31 年度の差を比較すると、第 3 区は 2,892 人から 2,532 人となり 360 人の減少(87.6%)であるが、第 4 区では 2,156 人から 1,749 人となり 407 人の減少(81.1%)である。

【流入】

- ・第 3・4 区の高校は、通学圏域が広く、この地域の生徒は比較的学校の選択肢が広い。
- ・第 3 区と第 4 区の間での流入は県内で最も多く、平成 17 年度入学生では、第 3 区から第 4 区へは 262 人、4 区から 3 区へは 372 人の流入があり、同一の通学圏域としてみることもできる。
- ・特に第 4 区から第 3 区への流出人数は、流入人数より 110 人多く、将来的にもこの傾向は続くことが推定できる。

【入学者の状況】

- ・長野南高校、松代高校とも志願倍率は 1.0 倍を越え、入学者数も募集定員を満たしている。

(長野南高校、松代高校に近接する中学校卒業生の平成 16 年度末進路状況)

進学先	長野南 高 校	第 2 区 の高校	第 3 区 の高校	その他 第 4 区 の高校	第 5 区 の高校	その他 の区 の 高 校	合 計
広徳中学	29	2	49	88	9	4	181
割合	16.0	1.1	27.1	48.6	5.0	2.2	100.0
更北中学	21	2	94	80	1	6	204
割合	10.3	1.0	46.1	39.2	0.5	2.9	100.0
合 計	50	4	143	168	10	10	385
割合	13.0	1.0	37.1	43.6	2.6	2.6	100.0

進学先	松代 高校	第 2 区 の高校	第 3 区 の高校	その他 第 4 区 の高校	第 5 区 の高校	その他 の区 の 高 校	合 計
松代中学	44	7	41	93	3	5	193
割合	22.8	3.6	21.2	48.2	1.6	2.6	100.0



(長野南高校と松代高校の平成 17 年度入学者の状況)

長野南高校の入学内訳(240名募集)		割合
広徳中学	29	12.0
更北中学	21	8.7
第 3 区中学	61	25.3
その他第 4 区中学	130	53.9
合 計	241	100.0

松代高校の入学内訳(200名募集)		割合
松代中学	44	21.9
第 3 区中学	26	12.9
その他第 4 区中学	131	65.2
合 計	201	100.0

#### 【地理的状況】

- ・長野南高校のある地域は、通学圏域が第 2 区から第 5 区までと広域にわたり、進学先となる高校の選択肢が非常に多い。
- ・松代高校のある地域は、比較的第 4 区からの中学校卒業者が入学する割合が多い。
- ・長野南高校は最寄駅の今井駅から自転車で約 20 分(約 3.6km)のところに位置し、松代高校は最寄駅の松代駅から徒歩で約 20 分(約 1.6km)のところに位置する。

#### 【総括】

- ・将来的にも第 2 区や第 4 区の中学からの流入が多いことが予測される長野市北部の高校の募集定員を一定に維持し、第 4 区の中で比較的第 3 区に近い、長野南高校と松代高校を統合する。
- ・統合に際し、交通機関などの利便性を含めた地理的配置を考慮し、長野市南東部の松代高校の校地・校舎を活用していく。

#### 【再編後のイメージ】

- ・松代高校を統合後の校舎・校地の候補とすることで、現在の松代高校の地域と連携した教育実績や、普通科コース制、商業科類型制を活かすことが可能である。
- ・統合した高校では、スケール・メリットを活かし、長野南高校で実施されている普通科の学校設定科目を多く置いた教育課程や、普通科類型制、特徴あるクラブ活動などを引継ぎ、第 4 区の教育の充実を図っていくことが可能である。

#### 【近隣校の状況】

- ・第 4 区の高校は、現在長野南高校や松代高校を含めて、一定の学校規模であるが、将来的な中学校卒業者の減少に対応するために 2 校を統合し、第 4 区の中学校卒業者の通学圏域が広範であり、特に第 3 区の高校への入学が多いことから、生徒数の推移を見ながら長野市内、千曲市内の高校の募集定員を十分確保していく。
- ・坂城高校については、多部制・単位制高校として多様な学習歴や生活歴のある生徒に対応した高校としていく。



坂城高校の多部制・単位制高校への転換

坂城高等学校

沿革

- ・ 明治 43 年(組)埴南農蚕学校
- ・ 昭和 19 年(組)坂城農学校
- ・ 昭和 27 年(県)坂城高等学校

設置学科及び生徒数

- ・ 普通科
- ・ 1 年 161 人、2 年 150 人  
3 年 119 人、計 430 人

【生徒数の状況】

- ・ 第 3・4 区は、平成 17 年の中学校卒業生数が 5,048 人であったが、平成 31 年には 4,281 人となることが推定され、767 人の減少となる。
- ・ 高校の数は、県立 16 校、市立 1 校、私立が 5 校あり、長野市、千曲市の高校に生徒が集中し、周辺の高校では下限規模を下回ることが懸念される。
- ・ 募集学級数は、平成 17 年度 89 学級であるのに対し、平成 31 年には 75 学級となることが推定される。
- ・ 学校を一定規模としていくために、県立全日制を 13 校程度にしていくことが適切である。
- ・ 中学校卒業生数の減少は、第 3 区より第 4 区のほうが多い。平成 17 年度と平成 31 年度の差を比較すると、第 3 区は 2,892 人から 2,532 人となり 360 人の減少(87.6%)であるが、第 4 区では 2,156 人から 1,749 人となり 407 人の減少(81.1%)である。

【流入】

- ・ 第 3・4 区の高校は、通学圏域が広く、この地域の生徒は比較的学校の選択肢が広い。
- ・ 第 3 区と第 4 区の間での流入は県内で最も多く、平成 17 年度入学生では、第 3 区から第 4 区へは 262 人、4 区から 3 区へは 372 人の流入があり、同一の通学圏域としてみることもできる。
- ・ 4 通学区制となつてからは、第 1 通学区と第 2 通学区の間は、特に流入が激しく、平成 17 年度入学生では、第 2 通学区への流出が 109 人、第 2 通学区からの流入が 164 人である。

【入学者の状況】

(坂城中学、戸倉上山田中学の平成 16 年度末の進学状況)

進学先	坂城高校	第3区 の高校	その他 第4区 の高校	第5区 の高校	第6区 の高校	その他 の区 の高校	合 計
坂城中学	39	25	48	55	2	3	172
割合	22.7	14.5	27.9	32.0	1.2	1.7	100.0
戸倉上山田中学	29	39	122	61	3	1	255
割合	11.4	15.3	47.8	23.9	1.2	0.4	100.0
合 計	68	64	170	116	5	4	427
割合	15.9	15.0	39.8	27.2	1.2	0.9	100.0

(坂城高校の平成 17 年度入学者の出身中学の状況)

坂城高校の入学者内訳(160名募集)		割合
坂城中学	39	24.2
戸倉上山田中学	29	18.0
第3区中学	9	5.6
その他第4区中学	41	25.5
第5区中学	36	22.4
第6区中学	7	4.3
合 計	161	100.0

	<p><b>【地理的状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長野市から上田市にかけての「しなの鉄道」沿線は交通の利便性がよい地域であり、この区間は列車の本数も比較的多く、長野 - 小諸間でも 1 時間ほどで移動できる。</li> <li>・坂城高校は、「しなの鉄道」の利用により、上田市から 10 分程度で移動でき、第 2 通学区からの入学者も多い。</li> <li>・坂城高校は、いわゆる「地域高校」であるが、交通の利便性では多くの地域高校と事情が異なる。</li> </ul> <p><b>【総括】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多部制・単位制高校は、広範な地域から生徒が通学しやすいことに配慮する必要があるため、立地条件が良い学校を転換する必要がある。</li> <li>・地域に根差した教育が行える地域性と、地の利が比較的良好な面を活かし、坂城高校を多部制・単位制高校に転換していく。</li> <li>・坂城高校の位置は、第 1 通学区から第 2 通学区にわたり通学圏域が広域であることから、東北信の定時制・通信制の中心的な高校としていくことができる。</li> </ul> <p><b>【再編後のイメージ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・坂城高校は、地域からの支援や、地域の製造業との連携などの実績から、講義中心の授業のみでなく、体験的な学習ができることを魅力として、職業教育も視野に入れた多部制・単位制高校へ転換していく。</li> <li>・東北信の定時制・通信制の中心的な高校として幅広く生徒を募集することにより、一定の規模を確保することが可能である。</li> <li>・午前部、午後部、夜間部の三部制をとることにより、全日制高校と同様の時間帯に学ぶことができ、また所属する部以外の授業を履修することにより 3 年間で卒業することも可能となる。</li> <li>・多様な学習歴、生活歴をもった生徒を含め、入学してくる生徒の向学心を高め、生徒が希望する進路を実現できる高校としていく。</li> <li>・幅広い教養や職業に関する知識・技術を習得するための講座の開設や外部講師を招へいするなどの工夫をして、地域の方からも学習者を募集し、生涯学習の場を提供することも可能である。</li> </ul> <p><b>【近隣校の状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・坂城高校は、第 3 区から第 5 区までが通学圏域となるため、多部制・単位制高校に転換し、距離的に離れている中野市に 1 校、長野市北部に 2 校の夜間定時制を維持したうえで、長野吉田高校・長野商業高校・篠ノ井高校・上田千曲高校・上田高校の定時制、長野西高校通信制を統合していく。</li> </ul>
--	---

坂城高校と長野吉田高校定時制・長野商業高校定時制・篠ノ井高校定時制・  
上田千曲高校定時制・上田高校の定時制、長野西高校通信制の再編

坂城高校

沿革

- ・明治43年(組)埴南農蚕学校
- ・昭和19年(組)坂城農学校
- ・昭和27年(県)坂城高等学校

設置学科及び生徒数

- ・普通科
- ・1年161人、2年150人  
3年119人、計430人

長野吉田高等学校定時制

沿革

- ・明治41年(組)東部農学校
- ・大正12年(県)上水内農学校
- ・昭和22年(県)長野農業高等学校定時制戸隠分校
- ・昭和31年(県)長野吉田高等学校

設置学科及び生徒数

- ・普通科
- 1年10人、2年4人  
3年5人、計19人

長野商業高等学校定時制

沿革

- ・明治33年(郡)乙種商業学校
- ・大正11年(県)長野商業学校
- ・昭和23年(県)長野商業高等学校

平成8年定時制単位制  
設置学科及び生徒数

- ・普通科
- ・13年次4人、14年次5人  
15年次35人、16年次36人  
17年次40人、計120人

【入学者の状況】

- ・第1・2区においては、須坂高校定時制を平成16年より募集停止している経過から、その周辺となる中野実業高校定時制、長野商業高校定時制、長野高校定時制の充実を図っている。
- ・坂城高校は、しなの鉄道沿線で上田市に近い、上小地区の定時制に通学していた生徒たちが志願してくることが予測される。
- ・現状の第1通学区の平成17年度定時制在籍数は、長野高校93名、長野商業高校119名、長野工業高校107名、篠ノ井高校72名であり、比較的生徒数の多い定時制が多い。

(第1・2通学区定時制課程の募集定員・入学者数・在籍者数の推移)

名	平成13年度			平成14年度			平成15年度			平成16年度			平成17年度		
	募集 定員	入学 者数	在籍 者数	募集 定員	入学 者数	在籍 者数	募集 定員	入学 者数	在籍 者数	募集 定員	入学 者数	在籍 者数	募集 定員	入学 者数	在籍 者数
中野実業	40	8	26	40	13	33	40	7	34	40	11	29	40	24	47
須坂	40	17	45	40	9	45	40	11	42	-	-	29	-	-	15
長野吉田	40	7	22	40	7	23	40	4	25	40	5	27	40	8	19
長野	40	24	74	40	22	77	40	18	70	40	26	90	40	31	93
長野商業	80	27	104	80	25	103	80	33	113	80	24	114	80	30	120
長野工業	80	21	70	80	20	79	80	32	94	80	27	103	80	25	107
篠ノ井	40	9	35	40	13	41	40	18	40	40	20	50	40	27	72
小計	360	113	376	360	109	401	360	123	418	320	113	442	320	145	473
上田千曲	40	12	33	40	10	38	40	12	39	40	10	37	40	22	48
上田	40	33	80	40	28	94	40	31	96	40	26	103	40	31	103
小諸商業	40	8	34	40	13	41	40	16	44	40	12	49	40	17	57
野沢南	40	13	50	40	11	51	40	19	60	40	14	62	40	18	67
小計	160	66	197	160	62	224	160	78	239	160	62	251	160	88	275
合計	520	179	573	520	171	625	520	201	657	480	175	693	480	233	748

【地理的状況】

- ・坂城高校を、多部制・単位制高校とした場合、通学圏域は広いが、第1区や第2区、長野市北部からは、遠距離の通学となるため、第3区にはこれまでどおり、夜間定時制を2校程度配置しておく配慮が必要である。

【総括】

- ・長野吉田高校戸隠分校は昼間定時制であるが、地域の生徒が通学しているのではなく、多様な生活歴を持つ生徒が通学している。(平成17年在籍生徒19名のうち、戸隠中1人、長野市内中学校13人、飯綱中3人、常盤中1人、県外1人)多部制高校の設置趣旨と一致しているため統合していく。
- ・長野商業高校定時制(単位制)及び長野西高校の通信制は近距離にあり、現在でも相互に併修を認めている。単位制、通信制、併修などのノウハウを多部制・単位制高校へ移行することとし、坂城高校に長野商業高校定時制と長野西高校通信制を統合していく。
- ・篠ノ井高校定時制については、坂城高校との学校間距離が比較的近い、多部制・単位制の柔軟さを活かした教育ができるように統合していく。

<p>篠ノ井高等学校定時制 沿革</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大正 11 年(県)更級高等女学校</li> <li>・昭和 23 年(県)篠ノ井高等学校</li> <li>・昭和 24 年(県)定時制設置 設置学科及び生徒数</li> <li>・普通科 1 年 35 人、2 年 19 人 3 年 11 人、4 年 7 人 計 72 人</li> </ul> <p>長野西高等学校通信制 沿革</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明治 29 年(町)長野高等女学校</li> <li>・明治 42 年(県)長野高等女学校</li> <li>・昭和 23 年(県)通信教育部開設</li> <li>・昭和 24 年(県)長野西高等学校</li> <li>生徒数</li> <li>・1800 人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・坂城高校は、第 2 通学区からの通学も可能な位置にあるため、広域な生徒募集が可能である。上田千曲高校定時制、上田高校定時制についても多部制・単位制の柔軟さを活かした教育ができるように統合していく。</li> </ul> <p>【再編後のイメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・坂城高校を多部制・単位制高校に転換し、第 1 通学区の定時制・通信制の中心校とし、他の夜間定時制の学校との連携を図り、教育内容を充実させていく。</li> <li>・多様な生徒に対応するために、多部制・単位制高校は柔軟な教育方法を工夫することが重要である。</li> <li>・統合後の定時制にも、生徒のニーズにより、空き教室を利用した相談室を設置し、居場所づくりやカウンセリング体制を考えることもできる。</li> </ul> <p>【近隣校の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中野高校と中野実業高校の統合校には、距離的に坂城高校と離れていることから定時制を設置していく。</li> <li>・長野高校定時制は、生徒からのニーズが高く、定時制専用の施設もあり、現在の定時制を維持していく。</li> <li>・長野工業高校の定時制は、長野高校が長野市北部に位置しているに対し、3 区の南部にある。地理的な位置関係から現状の配置を維持していく。</li> </ul>
---	--



